

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3学年	教科書	論理国語 大修館書店
科目	論理国語	クラス	IIコース	副教材	学習課題ノート(大修館書店) クリアカラー国語復習(数研出版)
		単位数	2	担当者	浅水 理香

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
学習方法	授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ・プリントや副教材等を利用して、授業内容についての理解を深める。 ・毎時間小テストを実施し、語彙力の定着を図る。 ・自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。
学習評価	<p>評価の観点</p> <p>a 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>b 思考力・判断力・表現力 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。</p> <p>定期考査については、上記a,bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に行っています。</p>

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点				単元の評価標準	評価方法
			a	b	c			
前期中間	【第II部】 1 自己と他者 『贈り物』としてのノリス・オブリージュ』	・筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。 ・「贈り物」についての筆者の主張をふまえて、自己と他者について考える。	○				・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながらいまを把握している。 ・ 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・ 学習課題に沿って、一般的な解釈と、筆者の解釈の違いを意識しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	【第II部】 1 自己と他者 『相手を意識して書く』	・相手に応じた適切な表現を選んだり書く。 ・言葉の難易度やニュアンスに注意して書く。	○					
前期末	【第II部】 3 ミディアムの変容 『消費されるスポーツ』	・具体例と筆者の主張との関係を的確にとらえる。 ・スポーツとメディアの関係についての考えを深める。	○				①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査	
	【第II部】 4 言葉の探究 『人を指す言葉—自称詞・対称詞・他称詞』	・根拠に注目しながら、筆者の主張を読み取る。 ・日本語の特徴について考え、言葉に対する理解を深める。	○					

後期中間	【第II部】 5 政治と社会 『多数決を疑う』	・筆者が指摘する問題点や代替案を読み取り、主張を理解する。 ・意思決定のしぐみに興味をもち、社会制度のあり方を考える。	○				①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	【第II部】 5 政治と社会 『対立した意見をふまえて書く』	・異なる立場の主張について、共通点・相違点をつかむ。 ・多様な意見をふまえて、自分の意見を書く。	○				
後期末	【第II部】 7 環境へのまなざし 『生物多様性の恩恵』	・具体例との関係に注意しながら筆者の主張をとらえる。 ・生物多様性と文化や社会との関係について考えを深める。	○				①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	【第II部】 8 歴史と時間 『自由に考えを書く』	・これまでの学習で身につけたことを用いて、自分の意見を書く。	○				

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3学年	教科書	精選現代文B[新訂版] 大修館書店
科目	文学国語	クラス	IIコース	副教材	精選現代文B[新訂版]学習課題ノート(大修館書店) クリアカラー国語便覧(教研出版)
		単位数	2	担当者	小笠原友幸

学習目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。 ○自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。
学習評価	<p>評価の観点</p> <p>当該科目の評価の趣旨</p> <p>a 知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>b 思考力・判断力・表現力 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く感じたり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもたせようとしている。</p> <p>定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。</p>

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	[単元1] 第2部 随想・評論(一) [教材] 『桜の中で、時が重なり合う』	・言葉による世界の多様なとらえ方に着目する。 ・自然と人間との関係における言語表現の魅力を味わう。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 自然の描写をはじめとする表現の特徴に着目し、文章の魅力を読み味わおうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	[単元2] 第2部 小説(一) [教材] 『鶴セット』	・時間の流れと人物の変化との関係を的確にとらえる。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 文体の特徴と効果をおさえ、作品を読み味わい、自身の日常や体験について考えを深めようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
前期末	[単元1] 第2部 小説(二) [教材] 『赤い罫』	・独特の文体や非現実的な展開のおもしろさを味わう。 ・寓話的な作品を読み、批評性や象徴性をとらえる。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の方法をふまえて、解釈の多様性について考察している。 c 作品の持つ寓意性や、その表現方法の特徴について考えを深めようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	[単元2] 第2部 随想・評論(2) [教材] 『藤』	・草木とともにある家族への筆者の思いを読み取る。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 c 筆者の表現をふまえて、伝統的な価値観やその変化について考えを深めようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
後期中間	[単元1] 第2部 小説(四) [教材] 『舞姫』	・明治という時代背景・舞台設定の意味を考える。 ・登場人物の境遇と心情を理解する。	○	○	○	a 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うこととおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作などとの関係をもふまえて、作品の解釈を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 時代背景や舞台設定をおさえ、登場人物の境遇を理解しながら、作品を読み味わおうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
後期末	[単元1] 第2部 小説(三) [教材] 『檸檬』	・登場人物の感覚から事物の多用なとらえ方を知る。 ・文体の特徴に着目し、その効果について考える。	○	○	○	a 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、語り手の視点や場面設定のしかた、表現の特色について評価することとおして、内容を解釈している。 c 登場人物のものの見方をおさえ、語りの特徴や効果をもふまえて、作品を読み味わおうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	[単元2] 第2部 随想・評論(三) [教材] 『物語る声を求め』	・口承の物語の特徴や意義を深く理解する。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 筆者の表現をふまえて、広い視野で文学作品や言語文化を理解しようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3学年	教科書	国語表現(大修館書店)
科目	国語表現	クラス	IIコース	副教材	国語表現基礎練習ノート(大修館書店)
		単位数	3	担当者	湊 祥之介

学習目標	国語表現の授業を通して次のことができるようにする。 ・国語で適切かつ効果的に表現する。 ・伝え合う力を高める。 ・思考力や想像力を伸ばす。 ・言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る姿勢を身につける。				
学習方法	・自分の意見を的確に相手に伝えられる能力を養う。 ・他者の意見を聞き、尊重する態度を身につけられるように、グループ学習を取り入れる。 ・学習した表現を理解し、自ら使えるように、書く・話す場面を設定する。 ・授業内でスピーチ発表やレポート作成を取り入れ、表現力を養う。 ・板書以外の要点を自らメモする。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。			
定期考査は行わず、授業内の活動や小テスト、提出物などで上記a,b,cの観点それぞれについて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	【言葉と出会う】 ・整った文 ・わかりやすい文を書く ・文のつながり 【伝える、伝え合う】 ・絵や写真を見て書く	表記、係り受け、文体統一、敬語、話し言葉と書き言葉	○		○	a 係り受けや文末表現の統一など、整った文を書くために必要な事柄を理解している。	・観察 ・ワークシート ・レポート
		漢字、仮名遣い、送りがな		○	○	b 漢字、仮名遣い、送り仮名について理解し、正しく使えている。	
前期末	【小論文・レポート入門】 ・小論文とは何か ・反論を想定して書く ・資料を読みとって書く ・発想を広げて書く ・レポートを書く	「ポイント」の読み取りや練習問題	○	○	○	c 「ポイント」の読み取りや練習問題に興味をもって取り組み、分かりやすい文を書くことへの理解に努めようとしている。	・観察 ・ワークシート ・レポート ・小論文 ・小テスト
		小論文とは、小論文の基本構成、構成メモの作成、執筆と推敲	○		○	a 小論文の基本的な書き方を理解しようとしている。	
後期中間	【自己PRと面接】 ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考える ・志望理由を書こう ・面接にチャレンジ	理由や根拠を示し、小論文を書く		○	○	b 理由や根拠を示し、構成メモに従った小論文を書き、読み返している。	・観察 ・ワークシート ・レポート ・模擬面接 ・小テスト
		小論文の学習に関心をもつ	○	○	○	c 小論文の学習に関心を持ち、小論文を書くために指示された基本的な構成を習得しようとしている。	
学年末	【自己PRと面接】 ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考える ・志望理由を書こう ・面接にチャレンジ	職業マップを用い、さまざまな職業があることを知る	○	○	○	a 言葉を用いて、自己と他者の相互理解に努め、3項目以上のライフチャートづくりや自分の長所の理解につなげている。	・観察 ・ワークシート ・レポート ・模擬面接 ・小テスト
		ライフチャートを作成する		○	○	b 発表内容がよく伝わるように、自己PRの具体例の配置を考えた構成メモを作り、声量や速さを意識しながら発表している。	
学年末	【メディアを駆使する】 ・通信文を書き分ける ・電話を使いこなす 【会話・議論・発表】 ・建設的な議論の進め方 ・プレゼンテーションの工夫	通信文ごとの形式の違いや、時候の挨拶などを理解する	○		○	a 通信文ごとの形式の違いや、頭語と結語、時候の挨拶などを理解し、正しい表現や言葉遣いや漢字を用いている。	・観察 ・ワークシート ・発表 ・小テスト
		声を使った表現活動に取り組む		○	○	b 相手や自分の立場、目的を考えながら、おおむね適切な電話対応を行っている。	
学年末	【自己PRと面接】 ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考える ・志望理由を書こう ・面接にチャレンジ	プレゼンテーションを行う	○	○	○	c プレゼンテーションをすることに意欲を見せ、積極的に学習しようと活動に取り組んでいる。	・観察 ・ワークシート ・発表 ・小テスト
		職業マップを用い、さまざまな職業があることを知る		○	○	c 自分の将来を考えたり、職業について調べてまとめたりしようとする前向きに学習に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	3	教科書	高等学校日本史探究 (第一学習社)
科目	日本史探究	コース	Ⅱ	副教材	最新日本史図表 (第一学習社)
		単位数	3	担当者	高橋 栄一

学習目標	日本の歴史を他国の歴史と関連づけながら理解し、歴史的な思考力に基づきながら人類の課題を多角的に考察することによって、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時用いて学習する。 (4)現代における社会的現象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)世界との関連や、人の営みである社会・経済・文化の動きが、日本の歴史の推移との関わりを学習する。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	我が国の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	b 思考力・判断力・表現力	歴史的・地理的事象から課題を見だし、わが国の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、現代の日本において主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第3章 近世の日本と世界	第1節 近世への転換	○	○	○	a: 近世国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近世国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近世国家と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
		第2節 幕藩体制の確立	○	○	○		
		第3節 幕藩体制の展開	○	○	○		
		第4節 社会の変化と幕府の対応	○	○	○		
前期末	第4章 近現代の地域・日本と世界	第1節 近代への転換	○	○	○	a: 近代国家の形成と社会や文化の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b: 近代国家の形成と社会や文化の特色から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近代国家の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
		第2節 近代国家の形成	○	○	○		
		第3節 国際関係の推移と近代産業の発展	○	○	○		

後期中間	第4章 近現代の地域・日本と世界	第4節 第一次世界大戦と日本	○	○	○	a: 近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b: 近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
		第5節 軍部の台頭と戦争の長期化	○	○	○		
後期末	第4章 近現代の地域・日本と世界	第6節 日本の再建	○	○	○	a: 近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b: 近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
		第7節 経済の発展	○	○	○		
		第8節 経済大国とグローバル化	○	○	○		
	第5章 現代の日本の課題の探究		○	○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	3	教科書	政治・経済(東京書籍)
科目	政治経済	コース	II	副教材	なし
		単位数	3	担当者	湊 祥之介

学習目標	社会のグローバル化の進展に伴い、従来、定型的にとらえ、理解してきた政治、経済、社会のしくみそのものが大きな変化に見舞われている。そのような社会において自律した社会人として変化に対応し、また、普遍的な価値を守っていくために政治社会や経済社会の基本的な枠組みやしくみを深く理解する。そして、その上でそれらの知識や多くの情報を的確に組合せ、取捨選択して変化の激しい社会を生き抜く能力を身に付ける。
学習方法	(1) 課題探究型学習をベースする(新学習指導要領を意識する)。 (2) 単元の基軸となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (3) 「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)の視点を導入する (4) 社会的事象における「見方・考え方」や歴史的な「見方・考え方」を働かせる。 (5) 新学習指導要領中の「政治・経済」を意識した歴史学習を展開する。
学習評価	当該科目の評価の観点 a 知識・理解 現代の社会的な事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 b 思考・判断・表現 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的な事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c 主体的に学習に取り組む態度 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。 定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 現代の政治【1節】 民主政治の基本原則	1 民主政治の成立 2 基本的人権の保障 3 現代の民主政治 4 世界のおもな政治体制	○	○	○	a: 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
	第1章 現代の政治【2節】 日本国憲法の基本原則	1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義	○	○	○		
	第1章 現代の政治【3節】 日本の政治機構	1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治	○	○	○		
前期末	第1章 現代の政治【4節】 現代政治の特質と課題	1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加	○	○	○	a: 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
	第1章 現代の政治【5節】 現代の国際政治	1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の役割と課題 4 戦後国際政治の展開と日本 5 国際政治の課題 6 地球環境と資源・エネルギー問題 7 国際社会における日本の役割	○	○	○		
	第2章 現代の経済【1節】 現代の資本主義経済	1 資本主義体制の成立 2 資本主義経済の発展と変容	○	○	○		

後期中間	第2章 現代の経済【2節】 現代経済のしくみ	1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能	○	○	○	a: 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
	第2章 現代の経済【3節】 日本経済の発展と産業構造の変化	1 経済再建から高度成長へ 2 オイルショック後の日本経済 3 日本経済の現状	○	○	○		
	第2章 現代の経済【4節】 福祉社会と日本経済の課題	1 公害と環境保全 2 消費者問題 3 農業・食料問題 4 中小企業の現状と課題 5 雇用と労働問題 6 社会保障と福祉	○	○	○		
後期末	第2章 現代の経済【5節】 国民経済と国際経済	1 貿易と国際収支 2 国際経済体制の展開 3 発展途上国の経済 4 地域主義の動き 5 グローバル化する世界経済	○	○	○	a: 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内政治及び国際政治から原因や背景を捉え、公正な判断の下、その課題を克服するための具体的な方法を適切に表現している。 c: 現代の国内政治及び国際政治を見つめ、よりよい未来社会を実現するための改善策を構想しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
	第3章 現代社会の諸課題【1節】 日本社会の諸課題【2節】 国際社会の諸課題	1 少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ 2 地域社会を活性化するにはどうすればよいか？ 3 どのようにして若者の労働環境を改善するか？ 4 中小企業の活路はどこに？ 5 どうする？日本の「食」と「農」 1 地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？ 2 経済成長は貧困を削減できるか？ 3 ノーリソース問題とは何か？ 4 地球社会で日本がなすべきことは何か？	○	○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
前期末	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期末	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3年	教科書	新 高校の数学Ⅱ(数研出版)
科目	数学Ⅱ	クラス	Ⅱコース	副教材	テスト式就職数学「数学Ⅰ・A」 (中部日本教育文化会)
		単位数	3	担当者	佐々木卓磨

学習目標	① 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ② 数学的な見方や考え方のよさを認識し、仲間と協力してよりよく問題を解決することができる。 ③ 進路実現に向けて既習内容を復習するとともに、社会人として身につけておくべき基礎的な内容が定着する。	
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時に、本時の授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための確認テストを行う。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	数・式の計算	数・式の計算	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	① 授業態度・発言 ・取り組み ・ノート作成 ② 課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③ 確認テスト ④ 定期考査
	因数分解	因数分解	○	○	○		
	約数と倍数	約数と倍数	○	○	○		
	平方根の計算	平方根の計算	○	○	○		
	式の値・比例式	式の値・比例式	○	○	○		
	1次方程式	1次方程式	○	○	○		
	連立方程式	連立方程式	○	○	○		
	2次方程式	2次方程式	○	○	○		
	不等式	不等式	○	○	○		
	数と量・割合	数と量・割合	○	○	○		
前期末	速さ	速さ	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	① 授業態度 ② 課題提出 ③ 確認テスト ④ 定期考査
	規則性	規則性	○	○	○		
	1次関数	1次関数	○	○	○		
	2次関数	2次関数	○	○	○		
	立体の体積と表面積	立体の体積と表面積	○	○	○		
	場合の数	場合の数	○	○	○		
	確率	確率	○	○	○		
	三角比	三角比	○	○	○		
図形と方程式	図形と方程式	○	○	○			
後期中間	集合と論証	命題の真偽	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	① 授業態度 ② 課題提出 ③ 確認テスト ④ 定期考査
	集合と論証	必要条件、十分条件	○	○	○		
	平方根の計算	平方根の計算	○	○	○		
	数列	数列	○	○	○		
	1次方程式	1次方程式	○	○	○		
	連立方程式	連立方程式	○	○	○		
	2次方程式	2次方程式	○	○	○		
指数と対数	指数と対数	○	○	○			
後期末	規則性	規則性	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	① 授業態度 ② 課題提出 ③ 確認テスト ④ 定期考査
	1次関数	1次関数	○	○	○		
	2次関数	2次関数	○	○	○		
	平面図形	平面図形	○	○	○		
	図形の面積	図形の面積	○	○	○		
	場合の数	場合の数	○	○	○		
	確率	確率	○	○	○		
	三角関数	三角関数	○	○	○		
微分法と積分法	微分法と積分法	○	○	○			

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	3	教科書	現代高等保健体育(大修館)
科目	体育	クラス	IIコース	副教材	Active Sports 2022 総合版
		単位数	2	担当者	照井 貴子 / 田村 憲介

学習目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育み、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を深め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育むことができる。				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。 ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。 教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。 				
学習評価	評価の観点 当該科目の評価の趣旨				
	a	知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。		
	b	思考力・判断力・表現力	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動 集団行動	○	○	○	a: 心と体は互いに影響し変化することを気づくことができる。 b: 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c: 体づくり運動に主体的に取り組んでいる。	観察 記録、テスト
	E 球技 ア:ゴール型 イ:ネット型	バスケットボール	○	○	○	a: ゴール前への侵入などから発射を阻害するための安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きができる。 b: これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 c: 球技の学習に主体的に取り組もうとしている。合意形成に貢献しようとしている。	観察 スキルテスト 学習カード 筆記テスト
		バレーボール	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	
	C 陸上競技 ア:競走 イ:跳躍	短距離走 走り幅跳び	○	○	○	a: 各種目特有の技能を高めることができる。 b: 課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直している。 c: 役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。	観察、スキルテスト 学習カード
		H 体育理論 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方	1.生涯スポーツの見方、考え方 2.筆記テスト	○	○	○	
前期末	G ダンス ウ:現代的なリズムのダンス	グループ学習 発表会	○	○	○	a: 全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊るための動きができる。 b: これまでの学習を踏まえて、目標に応じたグループや自己の課題を設定している。 c: 互いに共感して高め合おうとしている。合意形成に貢献しようとしている。	観察、学習カード 発表会
後期中間	E 球技 ア:ゴール型 ウ:ベース型	サッカー	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	観察 学習カード 筆記テスト
		ソフトボール	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	
	H 体育理論 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方	3.日本のスポーツ振興 4.筆記テスト	○	○	○	a: 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 b: 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c: 学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 筆記テスト
後期末	E 球技 イ:ネット型	バドミントン 卓球	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	観察 学習カード
		H 体育理論 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方	5.スポーツと環境 6.筆記テスト	○	○	○	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	Power on English communication II (東京書籍)
科目	英語コミュニケーション II	クラス	IIコース	副教材	教科書準拠ワーク
		単位数	4	担当者	小竹 光

学習目標	コミュニケーション英語 II の授業を通して次のことができるようにする。 ①社会性のある事柄などについて、必要な情報を理解し、状況を判断できる。 ②初見の物語・エッセイなどの英文の概要や要点を理解し必要な情報を得ることができる。 ③日常生活での出来事や話題について、相手に説明したり、自分の意見や感想を述べるができる。 ④相手やグループで話し合い、相手を尊重したディスカッションをすることができる。				
学習方法	①最終的なゴールを示した授業を展開する。 ②基本的に予習は不要。①のゴールに対して必要な知識・技能・理解・表現力などを組合せながら授業をすすめる。 ③積極的に英語を用いて相手と対話することを大事にしたい。 ④以上のことを身に付けるために基本例文の練習・ペアワーク・発表などを積極的に行う。 ⑤習ったことを定着させるために音読や英作文、ワークブック等を用いて復習を行う。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーション関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	b 思考力・判断力・表現力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを的確に伝えている。			
	c 知識及び技能	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem	・音読 ・基礎表現の定着 ・定着→演習	○	○	○	a: 強調の文、関係代名詞which, to have 過去分詞を用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b: 納豆パウダーについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c: 納豆パウダーについて、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
前期末	Lesson9 Flying after Her Dreams	・音読 ・基礎表現の定着 ・基礎表現を用いたペアワーク	○	○	○	a: althoughの文、no matter 疑問詞、分詞構文を用い、情報や自分の考えを表現できる。 b: ベシー・コールマンの経歴や人物像について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c: ベシー・コールマンの経歴や人物像について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
後期中間	Lesson10 To Work or Not to Work? Humans and Robots	・音読 ・基礎表現の定着 ・基礎表現を用いたペアワーク	○	○	○	a: 過去完了進行形、be to 不定詞、未来完了、insist thatを用い、情報や自分の考えを表現できる。 b: 各種ロボットやロボットの労働内容の変化について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c: 各種ロボットやロボットの労働内容の変化について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
後期末	学習のまとめ 演習	・音読 ・既習表現の復習 ・既習表現を用いたペアワーク	○	○	○	a: 既習の基本事項をおさえ、自分の考えを伝えることができる。 b: 既習の基本事項をおさえ、自分の考えを表現できる。 c: 既習事項をおさえ、様々な英文を見聞きし把握しようと努めている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
前期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15

令和6年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	Amity English Logic and Expression II (開隆堂)
科目	論理表現Ⅱ	クラス	Ⅱコース	副教材	教科書準拠ワークブック、チャックで英単語
		単位数	2	担当者	小竹 光

学習目標	外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につける能力を養う。3年生においては、上記態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。				
学習方法	①最終的なゴールを示した授業を展開する。 ②基本的に予習は不要。①のゴールに対して必要な知識・技能・理解・表現力などを組合せながら授業をすすめる。 ③積極的に英語を用いて相手と対話することを大事にしたい。 ④以上のことを身に付けるために基本例文の練習・ペアワーク・発表などを積極的に行う。 ⑤習ったことを定着させるために音読や英作文、ワークブック等を用いて復習を行う。				
学習評価	評価の観点 当該科目の評価の趣旨				
	a	主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。		
	b	思考・判断・表現	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。		
	c	知識・技能	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson15 美しい海を守ろう	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a 好きな本や映画などについて積極的に表現しようとする。 b 現在分詞や過去分詞を使って、物事を詳しく表現できる。 c 現在分詞と過去分詞の用法が理解できる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson16 特別なチョコレート	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a 動物などの特徴について、具体的に説明しようとする。 b 関係代名詞を使って、物事を詳しく表現できる。 c 関係代名詞の主格、所有格、目的格が理解できる。	音読 ペアワーク 英作文
前期末	Lesson17 フェアトレード	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a 最近感動したことについて、積極的にやり取りしようとする。 b 関係代名詞のwhatや非制限用法を使って、物事を詳しく表現できる。 c 関係代名詞のwhat、非制限用法が理解できる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson18 世界の子どもたち	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a 自分の習慣について、いつどのようにするかを積極的にやり取りしようとする。 b 関係副詞を使って、場所や時等を詳しく表現できる。 c 関係副詞の用法が理解できる。	音読 ペアワーク 英作文

後期中間	Lesson19 こんにちは、AI	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a ある人物になったらしたいことについて、積極的にやり取りしようとする。 b 仮定法を使い、願望や助言などを表現できる。 c 仮定法過去、仮定法過去完了が理解できる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson20 異文化理解のために	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a 環境のためにすべきことを、積極的に発表しようとする。 b 接続詞を使い、理由や譲歩などを表現できる。 c 接続詞の用法が理解できる。	音読 ペアワーク 英作文
後期末	学習のまとめ 演習	・音読	○	○	○	a 既習の基本事項をおさえ、自分の考えを伝えることができる。	音読
		・既習表現の復習 ・既習表現を用いた ペアワーク	○	○	○	b 既習の基本事項をおさえ、自分の考えを表現できる。 c 既習事項をおさえ、様々な英文を見聞きし把握しようとする。	ペアワーク 英作文

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
前期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	3年	教科書	最新情報処理 (実教出版)
科目	情報処理	クラス	Ⅱコース	副教材	各種問題集
		単位数	3	担当者	生平 裕子

学習目標	商業の見方・考え方を動かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
学習方法	コンピュータのハードウェアとソフトウェアを理解し、実務で必要とされるソフトウェアを活用して、情報を収集し、処理し、伝達する力、また、コンピュータを新しい業務に積極的に活用しようとする力を習得できるようにする。				
学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a	知識及び技能	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		
	b	思考力・判断力・表現力	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協動的に取り組もうとしている。		
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 企業活動と情報処理 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	1節 情報処理の重要性	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 情報の意義と役割を理解する。 コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。 情報処理に関わる職業や仕事を学ぶことにより、ICT人材に求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。 情報モラルの基本的な考え方や態度、情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と、その概要を理解する。 企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードとソフトの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。 情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法、電子メールの利用方法について理解する。 個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 	①授業態度 ②提出物 ③小テスト ④定期考査
		2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	○	○	○		
前期末	3章 情報の集計と分析	1節 コンピュータシステムの概要	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。 基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。 グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。 	①授業態度 ②提出物 ③小テスト ④定期考査
		2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	○	○	○		

後期中間	3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成	4節 情報の整列・検索・抽出	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトを利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。 問題の発見と解決についての考察、PPM分析などを活用した情報の整理及びPDCAサイクルによる企業活動の改善について理解する。 文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。 	①授業態度 ②提出物 ③小テスト ④定期考査
		5節 問題の発見と解決の方法 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成	○	○	○		
後期末	4章 ビジネス文書の作成 5章 プレゼンテーション	2節 基本文書の作成	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基本的な技法を身に付ける。 目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。 各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する。 	①授業態度 ②提出物 ③小テスト ④定期考査
		3節 応用文書の作成 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション 総合演習	○	○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	33	20	13
	思考力・判断力・表現力	33	20	13
	主体的に学習に取り組む態度	34	14	20
前期末	知識及び技能	33	20	13
	思考力・判断力・表現力	33	20	13
	主体的に学習に取り組む態度	34	17	17
後期中間	知識及び技能	33	20	13
	思考力・判断力・表現力	33	20	13
	主体的に学習に取り組む態度	34	17	17
後期末	知識及び技能	33	20	13
	思考力・判断力・表現力	33	20	13
	主体的に学習に取り組む態度	34	17	17

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	3	教科書	教育図書 フードデザイン
科目	フードデザイン	クラス	IIコース	副教材	教育図書 フードデザイン ワークノート
		単位数	2	担当者	阿部恵子

学習目標	1 食に関わる基本的な知識と技術を得ることができる。 2 自分の現在や将来の生活について、社会生活や家庭生活と結びつけて考えることができる。 3 グループ学習を通して、自分以外の意見を受け入れ、協調性を身につけながら、理解を深めることができる。				
学習方法	1 食生活を取り巻く問題を考えながら、それぞれのライフステージを想定し学習することで、健康で持続可能な社会と生活を目指す。 2 グループ学習や実習を充実させ、実践的・体験的な学習を行う。 3 プリントを用いて、知識理解だけでなく、考えをまとめ、発表する場を増やし、表現する学習も行う。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識・技能	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を得ることができる。調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を得ることができる。			
	b 思考・判断・表現	自分の食生活や食環境が大きく変化している現状を見つけ思考を深める。また、考えをまとめ発表ができる。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。			
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第3章 調理と献立	調理の基本 ライフステージと食事計画	○	○	○	a 状況に応じて、さまざまな調理操作を活用することができる。 加熱操作と非加熱操作の調理性と栄養的特徴を理解できる。 おいしさを感じさせる要素について思考を深めることができる。 c 調理の目的を栄養や心身の健康面等から学ぶ意欲が感じられる。	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 期末考査
	献立作成 調理実験・実習	献立作成 調理実験 調理実習	○	○	○	a 基礎・基本を理解し、安全に配慮して調理ができる。 調理法や器具の特徴、取り扱い方を関連させて理解している。 b 食事テーマを設定し、その目的に応じた献立作成ができる。 c 実習実験等に科学的な視点から取り組もうとしている。	
前期末	食物調理3級検定対策	筆記試験対策 実技試験対策(調理実習)	○	○	○	a 基本的な調理技術と課題をこなせる技術を身につけている。 筆記・実技試験に向けた知識や技術を理解している。 b 自分の食生活と関連付けて考えをまとめることができる。 c 検定に対して関心を持って意欲的に取り組んでいる。	授業プリント 調理実験・実習 検定への取組(筆記・実技) 授業観察 確認テスト
	献立作成 調理実験・実習	献立作成 調理実験 調理実習	○	○	○	a 安全に配慮して効率よく調理・片付けができる。 各調理法の特徴や器具の取り扱い方を理解している。 b 食事テーマと目的に応じた献立を考えることができる。 c 調理実習に科学的な視点で取り組もうとしている。	

後期中間	被服製作	食に関わる小物等の製作	○		○	a 基礎技術(手縫い・ミシン等)を理解している。 目的に合った作品製作ができる。 c 製作に意欲を持って取り組んでいる。	小物製作実習 授業プリント 授業観察 期末考査
	第3章 調理と献立	様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート	○	○	○	a 目的に応じたテーブルコーディネートができる。 各料理様式それぞれの特徴や献立構成を理解できる。 b 目的に応じた適切な様式を選択することができる。 c 各料理様式の特徴や食卓作法に関心を持つようとしている。	
後期末	第5章 豊かな食生活を作る	国民運動としての食育の推進	○	○	○	a 情報収集し、自分の考えをまとめることができる。 食育基本法の理念を知り、様々な活動を理解できる。 b 食育活動を通し、課題解決への思考を深めることができる。 c 食育の意義と活動に関心を持つようとしている。	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 期末考査
	調理実験・実習	調理実験 調理実習	○	○	○	a 安全に配慮して効率よく調理・片付けができる。 各調理法の特徴や器具の取り扱い方を理解している。 b 食事テーマと目的に応じた献立を考えることができる。 c 調理実習に科学的な視点で取り組もうとしている。	
	行事食・郷土料理	行事食・郷土料理の調査	○	○	○	a 行事食・郷土料理について必要な情報を収集・整理することができる。 b 食生活の文化と背景についてまとめたり、発表したりしている。 c 食生活の文化と背景について考えようとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	30	5	25
	思考・判断・表現	40	10	30
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期末	知識・技能	30	5	25
	思考・判断・表現	40	10	30
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15